

キクーンの ＼若手職員に聞いてみよ～!!／



- P.01 当局の魅力
- P.02 やりがい
- P.03 成長を実感した出来事
- P.04 入局前と後のギャップ
- P.05 当局での働きやすさ
- P.06 職場の雰囲気
- P.07 お昼休みの過ごし方
- P.08 就職活動時に重視していたこと・軸

総務省 東北管区行政評価局

TOHOKU REGIONAL ADMINISTRATIVE EVALUATION BUREAU

Q01 当局の魅力はどのようなところだと思いますか？



A

若手職員も主体的に業務に取り組めるところだと思います。当局の業務については、なにか決まった正解を出すというより、国民の皆さんにとってよりよい方向性とはなにか、ということ職員同士で意見交換する場が多く、**自分が考えたアイデアが反映される機会**もあるので、やりがいを感じられる職場だと思います。

(平成 29 年度採用・S さん)



A

業務を通じて**多岐に渡る行政分野について触れることができる**ことだと思います。特定の行政分野に偏ることはあまりないため、自身の知識の幅が広がるとともに、文系・理系に関係なく、これまでの自身の経験・知識を生かすことができる点は魅力と感じています。

(平成 29 年度採用・N さん)



A

全都道府県に出先機関があるため、**現場の声に耳を傾けやすい**ことが魅力であり、強みだと思います。また、行政相談も調査業務も幅広いテーマを扱っており、実際に現地調査等を行うことで、普段見ることのできない側面を垣間見ることができることも魅力の一つです。

(平成 29 年度採用・M さん)



A

調査等のテーマによっては、普段生活をしている中では関わる機会がないような分野に触れたり、許可がないと踏み入ることができない場所の現地調査を行ったりと、**貴重な経験ができる**ところだと思います。

また、取り扱うテーマも多種多様かつ、一定期間で変わるので、幅広く行政分野に携わりたい方や探求心のある方に向いていると感じます。

(平成 30 年度採用・T さん)

Q2 どのような時にやりがいを感じますか？



A

採用1年目に、地域計画調査の取りまとめを担当させていただきました。調査結果を相手機関に提示し、改善に向けた取組を行うように促すことができた時に、頑張っ**てよかった**なと感じました。

調査結果は、新聞やニュースでも取り上げられ、**1年目から本格的な仕事**をさせていただけたんだと感じました。

(平成30年度採用・Mさん)



A

行政相談では、国民から直接、国の行政などに関する苦情・相談等を受け付けます。寄せられた相談の中には、最終的なゴールとして根本解決には至らないものもありますが、相談対応に当たり、ご相談者の方から、「誠実に話を聞いてくれた」、「関連する制度等についてしっかり調べてくれてありがとう」といった**感謝の言葉**を頂けた際には、微力ながら人の役に立てたのだというやりがいと、当局の行政相談制度の意義を実感します。

(令和4年度採用・Sさん)



A

調査業務や行政相談業務を通じて、国民の行政に関する生の声をお聴きし、行政運営に反映していくことができることにやりがいを感じています。

特に、自分が携わった調査テーマについて、**報道で取り上げられ、相手機関や国民からの反応がある**と少しずつ改善に向かっていることが感じられ、うれしく思います。

(平成31年度採用・Sさん)



A

行政運営改善調査では、社会の変化や、その中で生じる問題（例：少子高齢化や核家族化という変化、遺留金や墓地行政、身元保証などの問題）を捉え、問題解決のためにどう行政運営を改善するの**かを自分なりに考える**ことに、やりがいを感じます。

知らないテーマに触れる度に、**自分の見ている世界の解像度が上がる**気がします！

(平成30年度採用・Nさん)



A お恥ずかしい話ですが、電話に対する苦手意識が薄れてきたことに最も成長を感じています。初めて調査の相手先に架電することとなったとき、決心するまで30分かかり、その後トイレに行ってから、受話器を持つ手と声を震わせながら電話したのを覚えています。

メモを用意することや回数を重ねることで、苦手意識が薄れ、未だに緊張することもあります。今では決心に要する時間は30分の1ほどになったと思います。

(令和3年度採用・Wさん)



A 読む、書く、話す、聞く力は、経験を積むごとに成長している(はず...)と感じています。

当局は、調査・相談業務のどちらにおいても、関係者とは異なる立場から課題に対してアプローチすることとなるため、関係者の話をよく理解し、他者に伝え、納得のいく解決策を考えていくという一連の手順にはこれらの力が不可欠であり、今後も向上させていきたいことの一つです。

(平成29年度採用・Hさん)



A チームで、限られた期間の中で業務をこなすことについて、少しずつ学び成長できている気がします。目標の達成(業務)を目指す以上、時には議論を戦わせる必要もありますし、常に締切りから逆算して行動する必要があります。

年単位の時間があり、基本的には個人プレーだった学生時代の自分から大きく変化した部分だと感じています。

(平成30年度採用・Nさん)

Q04 入局前と後で何かギャップを感じたことはありますか？



A 公務員ということで、入局前は事務作業がもう少し多いだろうとイメージしていましたが、調査業務であれば現地調査、行政相談業務であれば現地確認やイベント会場等での行政相談委員の支援など、出張が多い点にギャップを感じました。

管内の様々な地域に出向き、その土地柄に触れることができるのは大きな魅力だと思います。

(令和2年度採用・Iさん)



A 組織として上司・部下の関係はありますが、業務を進めるに当たっては、想像以上に、良い意味で年齢が関係ない職場だと感じました。

国民目線で課題を捉えることが重要であるため、1年目当時の上司から、「若い人の意見が一番大事」と言っていて、私の考えにも耳を傾けてくださったことがとても嬉しかったのを覚えています。

(平成29年度採用・Hさん)



A 入局前の印象では、調査・行政相談業務ともに、業務を行う上で「聴く・話す」ことが業務の大半を占め、最も注力する部分だと思っていましたが、入局後あらゆる業務を経験する度に「文章でまとめる」ことがそれ以上に重要な業務なのでは？と思うほど、個人的にギャップを実感しています。知り得た情報を過不足無く・正確に・分かりやすく文章にまとめることは、思いのほか難しい作業です。

(令和4年度採用・Sさん)



A 入局前は、ある程度経験を積んだ職員が主体となって業務を進めていくイメージがありましたが、入局してみると、年次や経歴にかかわらず、自分の意見を求められる機会が多いことや、実際に自分の意見を反映してもらえる場面もあることに驚きました。入局して早いうちから局の一員という実感を持って働くことができる職場だと思います。

(平成30年度採用・Tさん)



A

働き方の自由度が高い点は魅力と感じています。組織として積極的な休暇の取得を推進しているのはもちろんのこと、テレワークやフレックスタイムなども選択できるため、仕事と生活の両立を組み立てやすい環境が整っていると思います。

特に最近、チャット機能など様々なツールも整備され、テレワークにおいても効率的に仕事を進められる点は働きやすいと感じています。
(平成 29 年度採用・N さん)



A

超過勤務が癖にならないように、自分に割り振られた業務が、「明日できる業務」と「今日やらなくてはいけない業務」のどちらなのかを考えながら、メリハリを意識して業務に取り組んでいます。結果、上司や室員ともスケジュール感を確認する習慣ができ、大半の日は定時退庁ができているため、プライベート時間も充実しています。

(平成 29 年度採用・H さん)



A

当局では、上司の統括のもと、一人に業務負担が集中しないように配慮されたり、積極的な休暇の取得を促されたりなど、仕事と生活が両立できる環境が整っていると思います。

(平成 31 年度採用・S さん)



A

ワークライフバランスを重視されている方が多く、上司から率先して、休暇を積極的に取得して下さるので、若手も休暇を取得しやすく、適度に休息を取りながら働くことができます。

また、テレワークやフレックスタイムなども積極的に取り入れている方が多く、働き方もフレキシブルだと思います。

(平成 29 年度採用・M さん)



A

私が所属している秋田行政監視行政相談センターは、職員が計9人であり、**課室や係の隔たりなく、お互いに話しやすい雰囲気**です。

また、行政評価局は、行政の課題や行政相談の解決の出口など、物事を深く考えることが多い職場のため、局職員は、仕事や仕事以外のことについて、普段からより深く考えている人が多い職場だと感じています。

(平成29年度採用・Hさん)



A

若手職員であってもチャレンジしやすく、挑戦を他の職員の方々が応援してくれるような雰囲気であると思います。

例えば、若手職員で行政上の課題を深掘りするプロジェクトチームの活動が積極的に行われており、若手職員であっても活躍しやすい職場づくりがなされていると感じています。

(平成31年度採用・Sさん)



A

それぞれの職員が特定の分野に精通しているわけではないため、**全員で勉強、検討し、年齢や役職に関係なく意見を出し合いながら業務を進めることができる職場**です。

また、メンター・メンティー制度も導入されており、少しでも困りごとがあれば気軽に相談できる体制が整っています(部長室や所長室も常にオープンです。)

(令和2年度採用・Iさん)



A

先輩職員が丁寧に指導・サポートしてくれるので、臆することなく挑戦できる職場であると思います。また、最近では若手職員が多いため、業務において分からないことや悩みがあっても、気軽に相談できる環境が整っていると感じています。

(平成29年度採用・Nさん)



A

合同庁舎近くの公園のベンチに座って過ごすことが多いです。休日に作り置きしていたおかずを弁当箱につめて持って行き、ベンチに座って食べた後、読書などをして過ごしています。

このほか、仕事をする上で気になった分野について調べるなどして、自分の知識を広げるための時間として有効活用しています。

(令和3年度採用・Wさん)



A

昼食は、お弁当屋さんや近くの飲食店にお世話になることが多く、最近は立ち食いそばがマイブームなので頻繁に利用しています。

昼食を済ました後は、眼を休めることと軽い運動を兼ねて、庁舎近辺を散歩したりして過ごしています。庁舎の周りには大きな公園や気になる路地裏があったりするので、個人的には比較的飽きずに歩き回ることができ、良いリフレッシュになっています。

(令和4年度採用・Sさん)

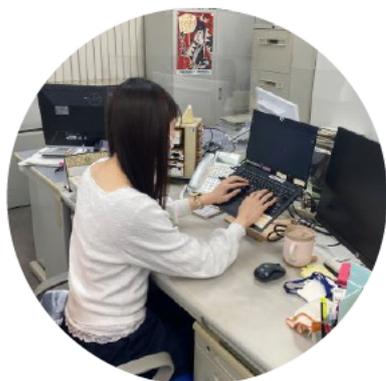


A

職場には、毎日いくつかのお弁当屋さんが売りに来てくれるので、そこで購入したお弁当をお昼休みに食べるのですが、出不精の私はとても重宝しています。

午後も仕事が頑張れるよう、「今日はどのお弁当屋さんにしようかな・・・」「これ美味しかったですよ！」と、同じ課室のメンバーと議論(?)するのも毎日密かに楽しみにしています。

(平成29年度採用・Hさん)



A

私は、民間企業は受けずに公務員一本に絞って就職活動に臨み、基本的には同じ職場で長期間働くことを想定していました。

そのため、「長く働き続けられるかどうか」を重視し、①新鮮味を持って仕事を続けられること、②職場の雰囲気や職員の人柄が自分と合うと感じることなどを判断材料にして選択しました。

(平成 30 年度採用・T さん)



A

困っている人や苦しんでいる人の一助となる仕事をしたいという軸を持っていました。どんな人も、できるだけ楽しく生活したいと考えていると思います。「楽しい生活」には一体何が必要か考えた時、エキサイティングな出来事の有無も大事ですが、困りごとや不安なことがないことが、まず大事なのではないかという結論に勝手に至りました。

ほかの多くの仕事も少なからずそうかとは思いますが、当局の業務も、困っている人に向き合う仕事だと感じ、志望しました。

(令和 3 年度採用・W さん)



A

「自分のやりたいこと・できること」と「志望先の業務」との関わりを、「自分が実際にやったこと(行動)」に基づいて考える、人に説明する、ということを常に意識していました。

志望先を選ぶ時も採用試験でも、この考えはぶれないよう気をつけました。

(平成 30 年度採用・N さん)



A

特定の分野よりも、幅広い分野に携わることのできる職種に就きたいと思っていました。このため、当初は地方公務員を目指していましたが、当局の業務内容を知り、入局を目指すようになりました。

また、転勤については、各県庁所在地にセンターがあるため生活しやすいこと、本省勤務が経験できることもポイントになりました。

(令和 2 年度採用・I さん)